

## 第 209 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 4 年 11 月 22 日（火） 13：30～14：52

場 所：浜田市役所本庁 4 階講堂 AB

出席者：岡田教育長 杉野本委員 花田委員 岡山委員 倉本委員

事務局 森脇部長（欠席） 草刈課長 山口課長 鳥居室長

田中課長 濱見室長

書記：日ノ原係長 皆田主任主事

新型コロナウイルス感染防止に伴う出席者の調整のため、議題、報告資料のなかった邊担当部長、猪木迫担当部長、松山担当課長、木屋担当課長、永田担当課長、岩崎分室長、細川分室長、上原分室長、石原分室長は、欠席。

### 議事

#### 1 教育長報告

#### 2 議題

- (1) 第 3 次浜田市子ども読書活動推進計画（案）について（資料 1、2、3、4、5）

#### 3 部長・課長等報告事項

#### 4 その他

- (1) 教育委員日誌の配布について

- (2) その他

#### 1 教育長報告

岡田教育長

皆様、本日はお集まりいただき、ありがとうございます。

この一月であるが、本当に秋晴れの穏やかな日が続いていると思っている。昨年まで自粛をされていたスポーツ大会、文化活動等、また産業祭等のお祭りも再開をされている。

今、コロナ感染の第 8 波の入口というようなこともあるが、市民の元気に繋がるこうした活動は、学校の教育活動ともども止めることなく、継続していきたいと思っている。

本日は宇津豊前委員に代わり、新たに教育委員に就任された倉本委員が出席される初めての定例会である。浜田市の教育行政がより良い方向に進んでいけるように、教育委員方と力を合わせて進んでいきたいと思っている。引き続き、ご支援をよろしくお願

倉本委員

いしたいと思う。それでは、倉本委員より一言ご挨拶をいただければと思う。

倉本と申します。よろしくお願いいたします。

私は退職をして、学校現場から離れて約 10 年近く経っているが、浜田市のために、それから浜田の子どもたちのために、これまでの経験がお役に立てばという気持ちでお引き受けをいたしました。できる限りの協力をしていきたいと思っているため、今後ともよろしくお願いいたします。

岡田教育長

よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

それではお手元の資料に基づいて、教育長報告から始めさせていただきますと思う。

① 10月31日（月）総務文教委員会（浜田市立小中学校統合再編計画策定報告

10月31日に浜田市議会の総務文教委員会が開催され、ここで小中学校の統合再編計画の策定を正式に行ったという報告をしている。反対意見は特になく、これまでの地元との質疑のやりとりをまとめて、ホームページ等で公開してもらいたい、見える化をしてもらいたいという意見があった。今後の統合に向けたスケジュールの確認であるとか、あるいは老朽化している石見小学校の現状を非常に心配しているといった意見等も寄せられている。

② 11月11日（金）市議会全員協議会（浜田市立小中学校統合再編計画策定報告）

同じく11月11日には、市議会全員協議会でも報告をしているが、ここでも特に意見はなく、この計画を認めていただいたと受けとめて、粛々と事業を進めていきたいと考えている。

③ 10月31日（月）浜田市名誉市民・佐々木正先生ご遺族による寄附対応（市長応接室）

浜田市名誉市民である佐々木正先生のご遺族による市長表敬を受け、同席をした。

寄附金をいただき、これは貴重な奨学金の原資にしたいと思っている。また、様々な遺品の寄贈も受けており、大切に保管をして、今後、企画展等でお披露目したいと思っている。詳細については、本日の課長報告の中で説明をさせていただく。

④ 11月1日（火）島根県人権教育研究協議会による市長表敬（市

長応接室)

令和5年度の夏に、浜田市で県大会が開催される。県内持ち回りで開催されているが、来年は浜田市が当番になるという報告を受けた。

- ⑤ 11月2日(水) 原井町笠柄町町内会長合同協議会による陳情対応(庁議室)

雲雀丘小学校が統合した後の跡地について、防災拠点としての活用を陳情する内容であった。

市長からは、今後どのような活用をしていくのかということとは市だけで一方的に決めることはなく、地元の意見も聞きながら検討していくという回答されている。

- ⑥ 11月8日(火) 石本正画伯関連ギャラリー(アトリエ・メイ)訪問(京都市)

8日は出張で京都に行ってきたが、京都市の石本正画伯のご令嬢が自宅を改築してギャラリーをオープンされ、この関係で訪問して祝意も届けている。

同時に中信美術館にも訪問しているが、ここは毎年、石本正企画展を開催していただいているご縁がある。ここにもご挨拶をさせていただいている。

- ⑦ 11月9日(水) B&G全国教育長会(東京:これからの学校教育)

それから9日であるが、B&G全国教育長会が東京で開催され、出席をしている。「これからの学校教育」をテーマとして、特に今の不登校対応等の課題に取り組む事例発表であるとか、あるいは財団の事業の説明を受けて、非常に参考になったところである。

- ⑧ 11月17日(木) HAMADA教育魅力化コンソーシアム役員会(中央図書館)

ここでは、今年度の取組の中間報告と来年度の事業方針について確認をして、意見交換をしている。

これから今年度後半に向けて、「ふるさとの歴史探求プロジェクト」を動かしていこうという計画、あるいは「教育魅力化テスター」等に取り組む予定がある。詳細については、後ほど課長報告の中で説明をさせていただきたいと思う。

なお、高校では今年度中に学校運営協議会を立ち上げる予定と伺っているが、いずれ浜田市の小中学校においても、この学

校運営協議会、コミュニティスクールについてどうしていくのか、しっかり議論を始めていかなければならない時期がきていると思っている。

⑨ 11月21日（月）浜田ライオンズ・亀山ライオンズ、ソロプチミスト支援品贈呈式（庁議室）

浜田ライオンズクラブ、浜田亀山ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト浜田から、県立大学と校長会と保育連盟に食料品や紙おむつ等の支援品の寄附をいただいている。

学校関係では非常食であったり、なかなか食事ができていない子どもさんがおられたりということもあり、カロリーメイト等の贈呈をいただいたところである。

⑩ 11月21日（月）叙勲伝達（瑞宝双光章・鹽谷法顯さん）

⑪ 11月22日（火）教育功労者表彰状伝達（森田清さん）

これまでの長年にわたる教育分野でのご功績に対して、校長経験者の方に表彰状をお届けしている。

1人目は、叙勲の瑞宝双光章を受賞された鹽谷法顯さんである。

それから2人目は、教育功労者表彰を受けられ、今はスクールカウンセラーでもお世話になっている森田清さんである。

なお、高齢者叙勲ということで永見弘さんも叙勲を受けられているが、県から表彰状が届き次第、伝達に行きたいと思っている。

実は本日が、12月議会の一般質問の通告締切日である。まだどういった質問が出ているのか確認ができていないが、毎回、教育に対しては多数の議員の方から多くの質問をいただいているため、しっかりと対応していきたいと思っている。

1か月間の報告は以上である。

今のところで、質問等はあるか。

質疑応答

特になし。

各委員

2 議題

- (1) 第3次浜田市子ども読書活動推進計画（案）について（資料1、2、3、4、5）

草刈課長

第3次浜田市子ども読書活動推進計画の策定についての資料を

ご覧いただき、子ども読書活動推進計画では検討委員会を作って、そこで議論をしていただき、検討委員会で取りまとめた素案について、1から3までご意見をいただいている。このご意見に対して、検討委員会から回答及びご意見の計画への反映等を検討し、計画案ということで資料5を付けている。このとおり、取りまとめたところである。

また、4については、1から3以外での検討委員会における検討内容について載せている。

1番については、6月29日に教育委員会定例会でご意見をいただいた内容になる。それが資料1-1と1-2であるが、主だった意見ということで4点挙げている。右側に市の考え方を載せているが、当日、お答えした内容がほとんどである。

No.3の14ページの計画のところであるが、修正をしている。それが資料1-2であるが、どうかたちで修正しているのかということを変更前と変更後として、横並びで記載している。

ご意見としては、ボランティアの先生を大切にするようなスタンスの記述をということで、実際に行政がしっかり関わっているという表現が薄かったため、その辺りを変更している。

資料1-2のNo.1の14頁では、いわゆる計画・反省等の話合いの支援をしていると変更している。それからNo.2の14頁のところ、ボランティアについては人材を受け付けているが、まだ十分に浸透していないため、多くの方に周知をして、興味を持っていただくことが課題であると認識している。それを受けて、いわゆるネットワークの構築ができるほどのつながりをこれから作っていきたいため、そのための研修、話合いの企画ということも踏まえて考えるということで、記載内容を補強した部分がNo.3の14頁である。

続いて2番、今回の計画についてパブリックコメントを実施している。

期間としては、7月15日から8月15日までの1か月間で募集した。その結果、1名の方からご意見をいただいている。ご意見については、資料2-1と資料2-2に内容等をまとめて掲載している。

まず、資料2-1をご覧いただき、計画全体に対してであるが、いわゆる「しまね子ども読書等推進の会」の浜田支部の事務局が中央図書館であるが、島根県が主導し、島根県の会議についての事務局は県立図書館であるため、その位置付けを計画に明示して

もらいたいというような内容であった。

それから、ボランティアの活動の連携、支援の取組である。

実際に浜田支部は中央図書館で事務局をしているため、それに基づいて連携、協働についての取組をしているとの説明を浜田市の考え方の最初の部分に記載している。実際に、島根県の子ども読書の計画についても確認したが、例示として「しまね子ども読書等推進の会」があるため、浜田市についても例示として、浜田支部の計画の中に明記をするようなかたちで修正をさせていただいている。

修正については、資料 2-2 をご確認いただき、ボランティアの例示として、「しまね子ども読書等推進の会浜田支部をはじめとした」というかたちで、浜田支部の記述を加えて計画に反映させていただくことを考えている。

最初の 1 枚紙の資料の 3 番目、浜田市図書館協議会でのご意見についてであるが、7 月 21 日に協議会を開き、5 件のご意見をいただいている。いただいたご意見については資料 3-1、ご意見の計画への反映内容については資料 3-2 に記載している。

最初の項目で計画全体についてであるが、主体となって活動する現場の方に伝わるようにしてほしいということで、計画を作成して学校、関係団体等に配布するが、学校司書の方まで実際に計画が届いていないとご指摘をいただき、実際に手に届くようなかたちで送付、配布を行うというのがそれに対する回答である。

2 点目の項目のところ、こちらも全体についてであるが、家読の推進や子ども読書の推進で具体的にできることをメニュー化して示してほしいという意見が出てきたが、計画の中ではなかなかメニュー化を載せるというのが難しいわけで、実行が当然図書館だけでできるわけではなく、子育てや学校教育等いろいろなセクションでやるため、それが民間セクションとも一緒になってやっていくというところで、どのようなことができるのか、どのようなことをしてほしいのかを皆さんと相談をしながら具体的なメニュー等について、検討、相談しながら進めていくという考えを示している。

続いて 3 点目は 15 頁に関する数値目標のところである。移動図書館の貸出冊数のところで、令和 3 年度の目標も令和 8 年度の目標も 7,200 冊、総合振興計画の後期に対応するのが今回のところの短期計画であるので、前回の前期計画の次の 7,200 冊であった

が、実際のところ 4,000 冊とか 5,000 冊弱で推移しているので、5,000 冊程度でいいのではないかというようなご意見があった。

実際に移動図書館の貸出冊数であるが、平成 27 年度は 4,400 冊程度であった。平成 28 年度に 4,100 冊程度に落ちているが、それ以降のところは若干落ちる年度もあるが右肩上がりの増加傾向にある。4,100 冊、4,300 冊、令和 2 年度は 4,800 冊、今年度についても前年度を上回るかたちで現在のところ推移している。

それから、まちづくりセンターでのイベント、まちカフェ等に毎回、移動図書館車が出るというわけにはいかないため、そこで PR ができないが、人員の許す限り出かけていき、移動図書館車の周知を図って、利用の促進を図る。移動図書館車は図書館から距離が遠いエリアに住んでおられる方への貸出のメリットがあるため、そういった部分で移動図書館車は続けていきたいと考えている。目標については、7,200 冊と高いが、数値目標は変えずに考えているところである。

続いて 4 点目、同じく数値目標であるが、図書館利用者カード登録数ということで、令和 2 年度が 42% 超えているが、人口に対して多くないかと島根県の方から言われたところである。これは図書館で、転出された方等、廃止の手続きをしていただければ当然、図書館利用者カード登録から外すわけだが、特に手続きをされずに転出される方や死亡の方でそのままになっているという問題がある。こういったことは浜田市の図書館だけではなく、どこの図書館でもある問題である。実際に住基を調べるわけにもいかないため、転出の状況等なかなか難しいが、実際の利用者がわかるような、実態に沿うような数値について、検討させていただきたいと思う。どのようなかたちで、その部分が実際にあるのかということも検討させていただいた中で、次期計画策定時には具体的な実態に沿う数値にさせていただくということを付記させていただき、今回の計画の中で登録者数の割合の目標については変えない。上位計画の総合振興計画、教育振興計画でもこちらの数字を使っており、そちらの数字を下位計画で引っ張ってきた関係上、今の時点でこの数字を変えることはなかなか難しい。どういったかたちで実際にやるのかということも検討する必要があるため、お時間をいただきたいと思います。

反映内容については、資料 3-2 をご覧いただき、欄外に付記とあるが、付記をさせていただくというような整備をさせていただ

きたいと考えている。

最後に数値目標 28 頁のところ、第 2 次の計画では図書館ボランティア登録数だったのが交流会の回数に変更していることについてだが、これは総合振興計画、教育振興計画の上位計画のところでも変更をしている。これはボランティア登録数とは、個人登録で図書館に登録されている人の数であるが、ボランティアの実数とはちょっと乖離がある。

実際の数より、実際にはもっと多くボランティアしてくださっている方がおられる。個人登録者数を挙げるのではなく、ボランティア同士のつながるかたちを大切にしたいと考え、交流会の回数に変更し、それを増やしていき、ボランティア同士のネットワークや連携を大切にしたいと考えている。先ほどお話しした部分を強化していくというような指標にさせていただければという考えである。以上が 3 番目までの説明である。

10 月に、回答や修正点を検討委員会で練っていただいたわけだが、その中で 2 件のご意見をいただいたのが 4 番、資料 4-1、4-2 である。

資料 4-1 をご覧いただき、学校図書館図書標準について語句の説明がないと分からないというご指摘を島根県の方からいただいている。資料 4-2 に 1 番と付番をして、下の欄外のところに説明を入れるというような修正をしている。

それから、これは 18 頁の計画の体系図の話であるが、「連携、協力」という言葉が出てくるが、「協働」という浜田市がよく使っている言葉に変更した方が良いのではないかという意見であるが、教育振興計画が 10 年間の前期 6 年計画を受けた後期 4 年計画となっており、その部分で「連携、協力」という言葉を使っているため、第 3 次浜田市子ども読書活動推進計画でも、それを引っ張っている関係上、「連携、協力」という言葉で整備をさせていただき、次の上位計画のところから、「連携、協力」という言葉を変更するかどうかということ、その時点のところを検討させていただければと考えている。

4 番については、先ほど申し上げた修正点について、6 月 29 日以降での議論とそれについての変更点を修正してまとめたものが、資料 5 の第 3 次浜田市子ども読書活動推進計画（案）である。

この計画について、ご承認をいただければと考えている。説明については以上である。

岡田教育長

子ども読書活動推進計画については、以前、6月の定例教育委員会の中で委員方にも見ていただき、いくつかのご指摘をいただいている。その内容について、資料1-1、1-2のとおり修正をするため、本日お諮りさせていただくものである。

また、併せてパブリックコメントや浜田市図書館協議会等からいただいているご意見と子ども読書活動推進計画の検討委員会のご意見、それぞれからいただいた意見の中で直すべきところ、修正すべきところは、こちらの資料にあるとおりに修正するというので、今回の推進計画の案をもって、ご異論がなければ案を取って成案としたい報告であった。

なかなかボリュームのあるものではあるが、事務局からの説明内容について、委員方からご質問、ご意見等があれば願います。

倉本委員

事前に子ども読書活動推進計画について読ませていただいたが、活動としてリーダーシップを持って引っ張っていくことは大変な労力であるということ、頑張っておられるということが初めて分かった。この計画案について、これであまり変わることはないだろうと思うため、少し感想を述べさせていただきたいと思う。

やはり読書は、人生を豊かにする。それからもっと身近なことで言うとやっぱり学力の基礎となるため、大いに推進してほしいと思う。そのためにいろいろなボランティアグループとか、関係各所を繋げていくことは大変なことだと思うが、是非よろしく願いたい。

もう1点、学力と関係あるところで少し気になったことがあるが、資料の28ページの数値目標の中で、平日の読書時間30分以上の児童・生徒の割合についてである。

令和2年度の実績から令和8年度までのところで、数値目標が小学校で37.6%、あるいは中学校で34.0%とあり、単純に質問であるが、どういうことが根拠でこの数字が出てきているのか教えていただきたい。

草刈課長

すみません。記憶で申し上げて申し訳ないと思うが、その事業の割合の部分については島根県の平均の数値ではなかったかと思っているが、細かいところのデータについては、担当課からいろいろ上がってきた数字を図書館でまとめており、違っているかもしれない。

倉本委員

島根県の平均というのは、全国学力・学習状況調査の意識調査の中で出た数字を基にしているということか。

草刈課長

そうであったと記憶しているが、もしかしたら違うかもしれないため、確認をして正確な回答をさせていただければと思う。申し訳ない。(確認し、小学校は国の平均値、中学校は国の平均値を超えるので現状維持の値としていることを会議後に説明済)

倉本委員

ここの数値目標を上げるということは非常に大変なことなので、どの辺りから根拠が出ていることなのかと思った。また教えていただければと思う。

草刈課長

承知した。

倉本委員から言われたように、子ども読書の部分について、当然図書館だけでできることではないため、学校教育課や就学前では子ども・子育て支援課とか、それから民間のセクターであるとか、いろいろなところと協力し連携をとりながら、この計画を作ろうと進めていく想定にしている。

数値目標については、先ほど申し上げたように他のところから集めた部分があるため、その辺りについては確認をさせていただきたいと思う。

それから、学力とか図書館だけでやるのは非常に荷が重い話であり、就学前のところについても検討委員会の意見の中で、連携のところを重視してもらいたいという話も出ている。事務局としてはどういうかたちで進めると、そういう団体と話ができて、より良いものになり、実効性がより高まるかというところで、それがキーポイントであると検討委員会の委員方から言われているため、その辺りも注意しながら、計画については推進させていただければと思う。

倉本委員

承知した。ありがとうございます。

岡田教育長

今、ご指摘があった部分について、資料の 15 ページに第 2 次の数値目標が載っており、第 3 次に向けては 28 ページになるが、第 2 次の時点でどういうやり方で数値を決めたのか、それを基にして、第 3 次ではまた少し増えているため、そこがどういう根拠かということ併せて調べていただければと思う。

草刈課長

承知した。

杉野本委員

資料の 1 ページに、全国の学力・学習状況調査結果が出ているが、小学校が少なく、中学校は国以上に読んでいると結果が出ている。中学校の 34 ポイントというのは国の数値を既に超えているため、これを何とか維持しようという気持ちかなと思う。

小学校は国と比べて非常に低いため、国より少し超えようよと

岡田教育長

ということで、この数値目標とされているのかなと感じた。

学力の中で、まずは県平均、そのあと国平均を目標にしているというのはあると思う。いずれにしても確認をお願いしたいと思う。

その他はいかがか。

岡山委員

改めて読み直してみても少し気になったところがあったため、確認の意味を含めて聞いてみるが、6 ページ目のところで前ページからの流れで、まちづくりセンターにおける読書活動の推進の中で、「①、②の取組が一部のまちづくりセンターにおいて実施できておらず、人材不足の傾向があります。」と記載がある。人材不足ということは、まちづくりセンター側の人材不足なのか、まちづくりセンターと関わって取組をする人の人材不足なのか、どちらなのかなと思った。

それから、6 ページの下段に四角で囲って団体貸出制度について記載があるが、「県立図書館も団体貸出を行っている。」と書いてあるが、この計画の中に既に西部読書普及センターの名前が挙がっているため、やはり県立図書館と書いてしまうと松江のイメージが強いかと思うので、この近隣のエリアには西部読書普及センターがあつて、団体貸出制度を行っていますと記載する方が、より分かりやすいのかなと思った。

草刈課長

6 ページのところについては、第 2 次計画の成果と課題ということで、令和 3 年度までの話であるため、まちづくりセンターに変わって間もないところでもあり、それより前の公民館の時点のところの部分がほとんどである。まちづくりセンターに変わって、人も増えたりしているため、増強された効果が出るのはこれからだと思う。それはまちづくりセンター側の話であるが、当然において、まちづくりセンターでない民間セクターとの協力の部分も、十分ではなかったところはあるかと思う。

ボランティア間のネットワーク等の問題もあるため、いろいろなセクターと組んで実効性の部分をどういうようなかたちにすることが参加しやすくなるのか。つまり、まちづくりセンターの事業に他のところが参加するにあたり、これから第 3 次の計画を進めていく中で、いろいろなところからご意見をいただいて、なかなか、分からないとか参加しにくいということが議論の中でも出ているため、そこがより分かるようなかたちで、意見交換会というようなかたちなのか、シンポジウムというようなかたちがいい

岡山委員  
岡田教育長

のか、そういうようなかたちで行い、より進めていくことを考えている。これは両方の視点からと考えている。

承知した。

先ほどの最初のご指摘については、第3次に反映させた点としては21ページになるかと思う。

2点目については、21ページの2の放課後児童クラブにおける読書活動の推進の中の(2)団体貸出図書の利用促進のところに、県立図書館西部読書普及センターの団体貸出制度ということで、ご指摘のあった点は明記されている。

草刈課長

申し訳ない。四角囲いの団体貸出制度の部分について、回答するのを忘れていた。

岡田教育長  
各委員

その他はよろしいか。

特になし。

岡田教育長

私もこの計画について、多くの方からご意見をいただく中で、図書館とはやはり社会教育の拠点の施設だと思う。それを行政だけでどうにかしたいということではなく、市民の方からも協働の話が出たり、あるいはその繋がりの部分のご指摘も出ている。

来年は図書館も10周年の記念事業についても考えていかなければならない時に、やはりそういう盛り上がり意見として出てきたのは非常に嬉しいことだと思っている。それを支える民間の団体と一緒に連携していきたいというご意見もいただいているため、実践としてもそこを大切にしていく必要があると思っている。

本日はこの計画案について、委員方から修正点等が特段なければご承認をいただければと思うが、よろしいか。

各委員  
岡田教育長

全会一致で承認

ありがとうございます。

教育委員の皆さん方からは、この案について同意をいただいた。

### 3 部長・課長等報告事項

草刈課長

行事等予定表（資料6）

資料6をご覧いただき、教育委員会関係の行事等予定表である。期間は11月22日から12月31日である。

表の教育委員のところに丸が付いているものについては、委員方へ出席をお願いするものである。

1つ目が、12月16日の浜田市人権作品コンクール表彰式であるが、ご案内の文書については郵送されると聞いている。後

岡田教育長  
田中課長

ほど、関連の課長説明のところで話があるかもしれないが、そう聞いている。

2つ目が、12月22日の第210回教育委員会定例会である。こちらの講堂で予定しているため、よろしく願います。簡単であるが、説明については以上である。

行事等予定表について、ご質問等あれば願います。

1点、字の誤りがあった。予定表の中の上から4行目、「石本正 私の画鏡」とあるが、「鏡」ではなく、土偏の「境」である。

石本画伯が41歳の時に、決意を文書で表されたものが「私の画境」というもので、そのタイトルを企画展の名称としている。申し訳ないが、土偏の「境」に訂正を願います。

その他はよろしいか。

特になし。

岡田教育長  
各委員

山口課長

HAMADA 教育魅力化コンソーシアムだより（資料7）

資料7をご覧いただき、3点ほど報告をさせていただく。資料7とは別に本日はカラー刷りのパンフレットをお配りしているため、そちらと併せて見ていただければと思う。

HAMADA 教育魅力化コンソーシアムを昨年度に設立して、教育魅力化と言うが、実質には高校の魅力化に取り組んでおり、今年度の上期の活動状況について、パンフレットでvol.1ということで発行している。

今年度は高校とは別に3校の共通事業として、夏休みを使って探求的な活動ができるということで、地域の方と一緒にあって、「探究活動 HAMADA Wi-Wi」という取組を行い、パンフレットの中に1枚もののリーフレットも入れている。

実際にフィールドワークとそれを踏まえて個別に探求したい子どもさんについては、個別にテーマ設定をする取組を進めている。実際に岡山委員にも協力していただき、地元の美又温泉の金城観光ホテルの佐々木代表からも協力をいただいてフィールドワークを夏休みに実施している。

その結果、1枚もののリーフレットの最後であるが、最終的に浜田高校や通信に通っている生徒の方も含めて4名の方が継続的に、食品ロスをなくしたいとか、防災意識を高めて命を守ろうとか、先の進学を見越しながら、4つのテーマを設定して、

一人ひとりに伴走者が付いて探求的な活動や取組がスタートしている。まだまだ始まったばかりで、これから固まった段階で報告会等を行っていききたいと思っている。

HAMADA 教育魅力化コンソーシアムだよりの中身であるが、中ほどに各浜田高校、浜田商業高校、浜田水産高校、浜田ろう学校、浜田養護学校を含めて市内の各学校の学校独自の取組というかたちで紹介しているため、またご覧いただければと思う。

一番最後のページをご覧いただき、実際に地域活動できる子どもたちを育てようという人材育成で始まっている事業であるが、実際には 43 名ぐらいが上期の 9 月末現在で参加している。

コロナの第 7 波もあって、夏休みに企画したものがなかなかできなかった部分もあるが、着実に参加する生徒が増えている状況である。

実際に課題として、忙しい子どもたちとどこのタイミングで地域と繋ぐとか、地域や団体のニーズと生徒のニーズがどう噛み合うかというところは課題であるため、そこは整理しながら、お互いがやりやすいかたちでできる場の提供と参加できるタイミングを検討していきたいと思っている。

資料 7 の中で昔の北前船が載っているリーフレットであるが、今年度、新規のふるさと歴史探求プロジェクトという事業で、浜田の歴史をターゲットにしたものを探求でやってみないかというかたちで企画を立ち上げた。

実際にこういった課題について、市議会からも言われたことであるが、地元の歴史をテーマに取り組んではどうかと提案をいただいていた。実際、この企画にあたり、今月末まで生徒募集をしており、市内の高校 3 校を中心に今声掛けをしているところである。

具体的に、いきなり北前船と言ってもあれなので、浜田水産高校から練習船を出してもらい、外ノ浦に外海から入ってもらって、実際に乗船体験をして、外ノ浦に北前船が入港した航路を辿りながらフィールドワークを始め、浜田市の学芸員も伴走で付きながら、テーマ設定をしていく。

来年度の 9 月に浜田城資料館で成果を展示できないかということで、今、企画を進めたばかりである。まだまだ募集を始めたばかりであるため、今後、状況については報告させていただ

く。

資料の最後のページをご覧ください、HAMADA 教育魅力化フェスタを企画している。企画内容としては、3校の高校の魅力をどうやって地域に発信するかということを中心としている。

昨年度は各高校が取り組んだ事業の成果発表として、当初は石央文化ホールで発表会を予定していたが、コロナの関係もあって、録画をしてユーチューブで配信するというかたちで動画配信での発表となった。

今年度については実際の各高校の取り組みを、2月3日（金）開催予定の「しまね探求フェスタ 2022」が各高校で行われて、ここで成果発表される。

成果発表とは別で、2月5日（日）に各高校の「しまね探求フェスタ 2022」の内容について、パネル展示等を行う。

それとは別に、各高校の魅力をどうやって地域に発信するかというイベントをいわみーるで行いたいと思っている。ここに行けば各高校の取組状況を知ることでもできて、生徒の方とも対話ができる。その中でワークショップにも取り組んでいく。

一部、ステージイベントとして、浜田商業高校の郷土芸能部の生徒さんに石見神楽を舞ってもらってはという提案がある。

こういった会場で学校の相談ブースも設けながら、来年、進路を考える子どもたち、再来年、将来に向けて、地元の高校を知るということを、高校の生徒も絡みながら情報発信していくイベントを予定している。

具体的には各高校の教頭先生を中心に部会を設けているため、各高校で詰めて、早いところで企画を、もう年末にかかっているため早めに情報発信し、多くの方に参加していただけるイベントにしたいと思っている。

続いて、浜田高校のちょこっ・トークと浜田水産高校のSuiSui トークである。今、探求型の学習が高校で始まっているが、それに対応するために1年生の今の時期に地域の方と対話をしようということで、探求型の学習に入る前に学習の場として各高校がトークイベントをしたいということで、企画をされている。コンソーシアムとしては、今、浜田高校で約130名の地域の方と浜田水産高校で40数名の方が集まっていたり、各学校と協力して支援者を集めているところである。今、大体40数名の方々が集まっているが、浜田高校については学

岡田教育長

校にもしっかり協力をしていただいて、2年目、3年目に繋がるかたちで1年目をスタートしたいと協力し合って進めているところである。

まだ枠が空いているため、是非、委員方にもご参加いただければと思っている。今の高校生の思いや伝えたいことも直接伝えてもらうことができるため、是非よろしくお願ひしたいと思う。

HAMADA 教育魅力化コンソーシアムとは一体何をしているのかというのが、どうも分かりづらいところがあって、やはりその活動をしっかり PR していく必要があるということで、今回こうしたパンフレット等も作らせていただいている。

やはり、地域とともにある学校づくりや人づくりを進めていくために、学校と地域をどうつなげていくのかを最大のテーマに持って進めている。

例えば、取組の一環が浜田高校のちょこっ・トークであったり、浜田水産高校の SuiSui トークでもあるため、委員方も出かけられて生徒の皆さんといろいろと話をしてみるということも双方にとって発見があるのかなと思っている。

それから、高校生の力を借りて、浜田の文化についてもしっかり知っていただいて、そのことを市民の皆さんにも広めてもらい、地域貢献をお願いできないかということで計画したが、高校生の学芸員募集である。今、歴史資料館をはじめとして、いろいろな市の政策もあるわけだが、どうしても若い人たちが浜田の歴史や文化について、どのぐらい知っているのか。あるいは、大切なそのことを伝えなければならないという大きな課題がある。その中で、今回、高校生で歴史や文化に関連した活動を今はしてなくても、興味のある方に参加をしていただき、参加された高校生に専門家の方からサポートをしてもらって、実際に水産高校の船に乗って、北前航路と言われるところを回ってみたり、地域の文化等に触れてみたり、そのことを高校生目線で企画展示に仕上げてももらえないかという取組である。

初めての取組であるため、どのようになるか分からないが、このようなこともやっていこうという内容である。

それから、HAMADA 教育魅力化フェスタが来年2月に予定されており、委員方にも見に来ていただきたいと思っているため、

	<p>予定を空けておいていただければと思う。内容についても、これから充実させたものにしたいと思っているところである。</p> <p>以上の点について、ご質問等あればお願いします。</p>
倉本委員	<p>このパンフレットを学校でもらってきたが、おもしろいなと思い、私自身が参加してみたいと思った。ふるさと教育という観点から、非常に良い取組だと思っているが、現在どのぐらいの希望者が集まっているか分かるか。</p>
山口課長	<p>正直、これは課題として年度当初からあることだが、学校も受け皿になるところとして歴史部等がきちっとあればいいと思うが、そこが今、浜田高校も少ないかなというところもあってスタートできなかった。実際に今、魅力化コーディネーターとして浜田高校の前校長である熊谷先生に浜田高校に入っていて、熊谷先生もやろうという強い意志を持っておられて、先生が動かれて集めているところであるが、まだ始まったばかりで、具体的には報告を受けていない状況である。</p>
倉本委員	<p>1年生、2年生を狙って、ターゲットにしておられると思う。3年生はいなくなるので。</p>
岡田教育長	<p>いずれは、中学生等も高校生と一緒に学んでいくことができればと思っているが、やはり人集めが難しいだろうということで、私が各学校の先生方にどうか人集めに協力をお願いしたいということを伝えるため、動画撮影をして私からも実は先生方をお願いをした。</p> <p>やはり自分がこういうことをやりたいという自主的な発想があって出てくるといいと思うが、なかなかこれが出てこない中で、こちらが決めて進めるということに少し抵抗感があるにはあった。だが、多少最初の取り掛かりとしては、そういうこともあってもいいのかなと思っている。</p> <p>これがいずれ、生徒の方から意見が出てきた企画ということで、いろいろなことに取り組んでいけるといいなと思っている。これは何とか実現したいと考えている。</p>
倉本委員	<p>承知した。そこそこ人数が集まるといいなと思う。機会があれば、私からも宣伝はしたいと思う。</p>
岡田教育長	<p>ありがとうございます。</p>
鳥居室長	<p>第7回（11月）市校長会資料（資料8） 11月の校長会で伝達をした内容を資料にしている。</p>

理数教育に力を入れるということで進めており、これまでの理数教育も含めて授業改善等々の情報提供をしてきているが、今回は理科についての情報提供である。1. 問題を見いだす力についてということで、初等教育資料の記載内容を使用しながら説明をさせていただいている。

問題を見いだす力については理科だけではなく、全てのところに必要な力である。前段のところと四角に囲ってあるところで、全ての教科に共通する内容であるとお示ししている。

理科について、今回の学習指導要領の中で子どもにどんな力をつけていくのかということはずっと見ていくと学年の系統性が非常にあるということであった。

小学校3年生から理科の授業が始まるが、下段の表をご覧ください、小学校3年生では比較しながら問題を見いだす力をまず身に付けていく。その力が3年生で身に付くから、4年生になれば関係付けて、問題を見いだした後に根拠のある予想や仮説を発想していく。その様なかたちで系統を立ててずっと進んでいく。

2 ページ目をご覧ください、小学校の段階では6年生でより妥当な考えをつくりだし、それを発展して中学校も系統性がある。

これについては、各学年の内容のところでも全てこの文言が出てくる。目標のところでは絶対に必ず出てくるが、それだけこの部分を大切に授業をしてほしいということである。

とにかく実験、観察のところに目が行きがちで、この力を伸ばすために実験や観察を行っているという意識が薄れがちになるため、このことを特に大切にやっけていくことで理科好きの子どもが増えて、ひいては理科の成績が上がっていくことに繋がるということを校長先生方に理解していただけるようにお示ししている。

併せて、学力向上推進室だよりでこの表を基にして説明したものについても各学校へ配布している。

続いて、2. タブレットドリル活用状況調査であるが、タブレットドリル導入から少し時間が経ったので、活用状況について各学校に調査をしている。どのような活用をしているのか、問題点は何か、要望は何か等、把握するために行った調査である。調査結果で出てきた主なものについて、まとめたものを資料に

記載している。この結果を基にして、来年度以降のタブレットドリルの取り扱い、導入の仕方について、検討していきたいと思っている。

学校からは、特に思考過程の記録が残らないため、そこに課題があるということである。それからドリルであるため、発展的な問題、あるいは中学校については高校入試であるとか、学力調査等々の過去問題がないという課題、それから従来の紙媒体の方が、タブレットでやるよりも良いという意見もいただいている。これらも踏まえて検討していきたいと思っている。

次のページに資料Aとして付けているのは初等教育資料で載せられていたものをそのまま転記したものである。説明については以上である。

岡田教育長

ただいまの説明について、ご意見ご質問等があればお願いします。

杉野本委員

今のタブレットドリルの活用について、問題点であるとか、あるいは要望で紙媒体のドリル・プリントの活用の方がよい等の意見がでていますが、これは大多数の意見であるか。それとも一部として、こういった意見があったということか。

鳥居室長

これは意見が多い順に表している。少数意見は下の方へ入れている。

杉野本委員

これは教員からの声であるか。

鳥居室長

学校からの教員の声である。

杉野本委員

子どもの声はどうか。

鳥居室長

子どもの声は聞いていない。すみません。

杉野本委員

タブレットでパッとできるのが取っつきやすい、ごちゃごちゃ書くのが面倒だからドリルをしたくないという子にとっては、タブレットドリルの方がいいかもしれない。指導する側としては、過程が見える方がいいとは思いますが、何を目指し、求めるかいうところで、この活用の仕方では紙媒体の方がいいのか、タブレットの方がいいのかとなっていくと思う。

紙媒体に戻したら、がっかりする子どもが多数いるようであれば残念な気がする。

鳥居室長

実は活用状況がいまひとつである。そういったことがあって調査をしているが、どこに課題があるのかを見つけたかった。子どもによっていろいろあると思うが、長い先を見ていくと、自分で問題を選択しながら、自分に適した問題をやっていく、

そういった力をつけていくことがベストであろうと思う。そういう意味では、タブレットドリルは優れていると思うが、紙の良さもある。紙媒体の場合は先生が印刷したものを一律に配っていくということになるため、確実に取り組んでいけるのはやり易いけれども、将来の力を考えるとどうか非常に悩ましいところでもあり、私も非常に悩んでいるところである。そのため、校長会で少し議論をお願いしようかと思っている。

杉野本委員

紙媒体のドリルであっても、新しいものになってくると、習熟度に応じて対応できるような部分があって、一律の同じ基礎学力ばかりではなく、というものも多少出てきていた気がするが、タブレットの場合はどうか。

鳥居室長

タブレットの場合も同様である。つまりいた場合は元に戻り、もっと簡単なコースに戻っていくことができる。杉野本委員が言われたように、紙媒体の部分でも、それよりも少し難易な問題があったり、もしくは安易な問題があったりするが、同じような問題でもレベルが違うものが用意されている。子どもたちがそれを選択してどんどんできるかという点紙媒体の場合は印刷の手間があるので、難しいところでもある。だが、紙媒体でもやろうと思えば可能である。

杉野本委員

先生方としては、紙媒体の方が指導しやすいという感じが調査結果からは伝わってくる。

岡田教育長

タブレットは、やはり記述をして答えていくところが非常に難しい部分ではあると思う。答えた回答に対して、じゃあ誰がどうそれを見て正否判断していくかというところである。○×問題であれば機械がそのまま判断してくれるが、そのようないろいろなことがあるとは思っている。

ただこれからは、タブレットをどんどん使っていく方向性にはあるため、もっと活用していただきながら、特に記述問題で記述の力が今まで弱いということが大きな問題でもあったため、そこをどう補完していくか、いろいろとアイデアを出していかなければならないと思っている。校長先生や現場の先生方からの意見を聞きながら、どうしていくかをさらに検討していく必要がある。

鳥居室長

この前、業者の方に来ていただいて、少し意見交換をしている。

この課題については業者の方も重々分かっておられ、再来年

杉野本委員

に教科書の一部改訂が行われるが、それに併せてリニューアルを行うと聞いている。どこまでのリニューアルがあるのかは分からない。先ほど教育長が言われたように、記述については非常に難しい部分があり、だからドリルということもあるが、その辺りの選択をどうするのか、しっかり考えたいと思う。

子どもたちに、自分で間違いを見つけて自分で直す力をつけていかなければいけないと思う。先生が丸付けをした後、いつまでも指導されるばかりではなく、自分の自己チェックのためのドリルとして活用できるようになっていくと良いと思う。

そうすると、おそらく中学生、高校生になっても自分で修正して、より良いものにチャレンジしていくような力に繋がっていくようなドリルの活用ができる力をつけてあげる必要があると思うし、そのような力を身に付けると先生方が丸つけばかりして時間を取られるということも減っていくと思う。使いやすいのはタブレットとドリルとどちらなのかなと、その辺りも先生方が見通しておきながら、段階的に指導していくことも考える必要があると思った。

岡田教育長

課題意識を持ってということなので、これをどう解決していくかというのは、多くの人の目を見ていただいて検討していただけたらと思っている。

花田委員

今の件について、校長会で議論をしていただくとおっしゃったが、校長先生方で議論をしてもどうなのかなと思う。この調査をされたかたちがはっきり分からないが、担当者は担当者としての主観も交えて答えているのか、それとも学校の中での集約したものを挙げてきているのか、答えた方の年代とか、そういうことも影響があるのではないかと今の話を聞いて思ったところである。

そうすると、多数決で例えば意見が多かったからこれが上にくるというところは誰が言ったのかなというところと、杉野本委員が言われることも本当にそうだなと思ったが、課題が子どもたちにとってどうなのかという視点が非常に今全然取れていないような感じが私はした。評価の仕方でも困っているのであればそれは教員側の問題で、タブレットをやめてしまう方がいいのではなく、評価の仕方をどのような方法にするのかを考える必要があると思う。問題があればそこを改善して、タブレットをどのように活かしていくかという方向での考え方でない

と、紙媒体に戻るというのでは少し短絡的かなという気がした。

実際にタブレットが子どもたちにとって良いというのは、全部に良いのかということそうではないかもしれないが、場面にもよると思っている。こういう場面には非常に効果的であったり、もちろん全然違うと思うので、ドリルに関して言えば、慣れている紙媒体のドリルの方が今の段階では良いと思う子どもたちが多いかもしれないが、例えば紙に書くのがしんどいと感じるのは特別支援の子どもたちの率が高くて、筆圧等で問題のある子もたくさんいて、その子たちがどのような状態なのかということ、私は現場で見ている不登校の子どもたちが学校のタブレットを持ってきてタブレットドリルに取り組んでいるが、「こっちがいいよね」って言いながら取り組んでいるため、その声は多数決でいうと絶対に少数派であると思う。だが、底辺の子を救うということでは、非常に効果的であると私は肌で感じている。その辺りを学校の調査の中で、どこまで把握されているのか、反映されているのか、これで止めてしまうのは非常にもったいないと感じている。もう少し慎重に、いろいろな場面と色々な子どもの立場から集めた調査をしていただければと思う。

鳥居室長

多くは学校の意見として出している。活用場面についても学年ごとに意見を聞いているため、それぞれのところの意見を聞いている。おっしゃるとおり、子どもたちの意見は反映されていない。先生方の意見である。

岡田教育長

今、いろいろな方向から見ていくと色々な考え方がやっぱりある。少しその辺りの声も拾いながら、先ほども花田委員から今までにない意見をいただけたと思っているため、もう少しここは丁寧に進めていきたいと思う。ありがとうございます。

各委員

その他はよろしいか。  
特になし。

田中課長

名誉市民佐々木正先生ご遺族による寄附について（資料9）  
資料9をご覧いただき、名誉市民である佐々木正先生のご遺族の方々が10月31日に表敬訪問され、寄附金や遺品の寄附をいただいている。

寄附金については1,000万円のご寄附をいただき、冒頭に教育長から説明があったように、奨学基金に含めて活用させていただく。

それから遺品についてであるが、国からの藍綬褒章、それから勲三等旭日中授賞、勲章等の記念品を寄贈していただいている。

それから、米国のアメリカの電気電子学会（IEEE）名誉会員記念盾も寄贈していただいているが、日本人の中でも非常に貴重な称号をもらわれている。

その他にも電卓が各種21点、資料に写真も掲載しているが、左下にマイクロコンペット QT8D という手のひらサイズのものである。手のひらサイズと言っても、右上に娘さんが実際に手に持っておられる写真があるが、そのくらいの大きさで、これがマイクロコンペットという機種であるが、この1台前のものはコンペットと言って非常に大きな機種であった。それらも今回併せてご寄贈いただき、その他に初の液晶の搭載したもの、それからカード型のもの、電卓21点、写真27点、著書6点の合計112点の寄贈をいただいている。

資料には掲載していないが、佐々木正先生はアポロ計画にも実は関わっておられ、その時の記念品等も併せてご寄贈をいただいている。

こちらについては郷土資料館に保存をして、来年度の企画展で、できれば子どもたちに見てもらえるような夏休み期間を利用して企画展示をさせていただきたいと思っている。だが、そうすると時間が空いてしまうため、市役所の1階ロビー等を使って、企画的に展示をしたいと考えている。

#### 第45回島根県立体育館建設記念島根県体操競技大会について (資料10)

続いて資料10をご覧ください、第45回島根県立体育館建設記念島根県体操競技大会が開催されている。

この大会には、教育長も来賓として出席をされている。表にあるように、浜田市内の高校生から小学生まで参加をしたところである。

黄色く色付けしている部分が、浜田市の学校、あるいはクラブから参加をされた方々である。

一番下の小学生女子のところで、浜田体操クラブの上野さんが優勝されており、その他の各学年においても2位、3位に入賞をされている。この時には、既に旭中学校を卒業されている方で、旭なごみ体操クラブの卒業生でもある、全国トップクラスの高校の体操部に在籍している選手もオープン参加をして、演技を披露していただいている。それぞれ福井県の鯖江高等学校や広島県の崇徳高等学校という強豪校のトップクラスの技術を見る機会を大会に併せて設けることができたところである。

参加者の中身であるが、表の一番上の高校男子で浜田体操クラブ、県立浜田高校から参加があるが、学校単位やクラブ単位での参加がある。

一番上の浜田体操クラブの濱野さんについては、実は高校生であるが益田の高校に進学している。ただ、引き続き浜田体操クラブの先生からご指導をいただきたいということで、浜田体操クラブに所属して、クラブから今回出場ということである。

今回の結果については、学校名とクラブ名が混じっているが、そういった内容である。資料の説明については以上である。

資料9の佐々木正先生のご遺族による寄附であるが、これは奨学金の原資にしてほしいというご遺族からの意向があつて、そのようにさせていただきたいと思っている。

それから資料10の体操競技大会であるが、令和7年にインターハイの体操大会が浜田市で開催されることが決まっている。実は、今、中学生であるとか、小学校6年生であるとか、そうした体操競技人口をやっぱり増やして行って、きちんと指導者の方についてももらう仕組みを作っていかなければならないと思っている。

前回のインターハイに続いて、引き続き浜田市の会場でインターハイを設けるということになっているため、この辺りの動きも出てくればご報告させていただきたいと思う。

資料9、10について、ご質問等あれば願います。

佐々木正先生であるが、人物読本ふるさと50人の中に載っておられるか。

載っていたかを確認する。申し訳ない。

ふるさとの50人であるが、非常に小学生にも親しみやすい内容の書かれ方である。

岡田教育長

岡山委員

田中課長  
岡山委員

田中課長  
岡田教育長  
各委員

例えば、郷土資料館で飾られる時に、ここに載ってますよとふるさとの 50 人と併せて飾られると、非常に分かりやすく良いのではないかと思うため、もし載っているのであれば、一緒に飾ることができれば良いと思う。

承知した。

その他はよろしいか。

特になし。

濱見室長

令和 4 年度浜田市人権作品コンクール入賞者について（資料 11）

資料 11 をご覧いただき、令和 4 年度浜田市人権作品コンクール入賞者について、報告をさせていただきます。

毎年、小学校、中学校、一般の方に向けて、ポスター、作文、標語の作品の募集をしている。作品に関わることで、人権についての認識を高めていただくとともに、その作品を啓発活動に活用することで浜田市全体の人権意識の高揚を図ることを目的として作品を募集している。

今年度については、9 月、10 月に募集を行い、資料に掲載しているご覧の方々を優秀賞として選出している。

ポスターについては中学校、作文については小学校と中学校、標語については一般から募集をしている。

応募総数については合計 184 作品の応募があり、そのうち 25 名の方が優秀賞、その中で特に優秀な作品については最優秀賞をつけている。

このことについて、まだご案内ができておらず申し訳なかったが、12 月 16 日（金）に、入賞者の方の表彰式を行う。

会場は浜田まちづくりセンターで、教育長から入賞者の方へ表彰状を手渡していただく予定である。

それから表彰式が終われば、市役所ロビー、世界こども美術館にて展示を行う予定である。また、市の講演会等でパネル展示を行い、3 月には広報に併せてリーフレットを全戸配布する予定にしている。報告については以上である。

ただいまの内容について、ご質問等あれば願います。

特になし。

岡田教育長  
各委員

4 その他

(1) 教育委員日誌の配布について

日ノ原係長	本日は委員方のお手元の方に、令和4年12月分から令和5年11月分までの1年間分の教育委員日誌を置いているため、またご確認いただければと思う。よろしく願います。
各委員	承知した。

(2) その他

岡田教育長	事務局からその他何かあるか。
日ノ原係長	特になし。
岡田教育長	その他のところで、委員方からご報告やご質問があれば願います。
各委員	特になし。

次回定例会日程

定例会 12月22日(木) 13時30分から 浜田市役所本庁4階講堂AB

次々回定例会日程

定例会 1月26日(木) 13時30分から 中央図書館2階多目的ホール

14:52 終了